

EHS活動の目標と実績

東京エレクトロングループでは、EHS活動目標を設定し、グループ全体でEHS活動を推進しています。

EHS活動目標と2005年度実績

	活動項目	2005年度達成目標	実施結果	評価	2006年度以降の計画、目標	関連するページ
EHSマネジメント	国内事業所、海外事務所でのEHS活動推進	—	国内のフィールドステーションでのエネルギー、廃棄物量の把握を開始	—	データ把握を継続する	—
	EHS相互アセスメントの実施	事業所間でのEHS相互アセスメントを実施	2事業所において実施、発見した指摘事項を是正した	○	監査対象部門および範囲の拡大	P15
製品における環境への取り組み	装置の省エネルギー化	TELロードマップ指標の達成	200mm製品:6製品中5製品で達成した	○	2007年度、2010年度目標の達成	P18、19
			300mm製品:6製品中2製品で達成し、3製品で目標に近い値を達成した	△		
	装置に含まれる規制化学物質対策	対策すべき化学物質と方針の明確化	Pb、Cd、Cr ⁶⁺ 、Hg、PBB、PBDEを全廃対象とした	○	TELロードマップの指標の達成	P20
	鉛フリー化	2006年1月からの生産装置の組み込み開始	左記目標を達成した	○	TELロードマップの指標の達成	P21
事業所における環境への取り組み	省エネルギーの推進	エネルギー使用量の削減(省エネ法に基づき、CO ₂ 発生量ベースで売り上げ原単位比1%削減)	2004年度と比較して売り上げ原単位比8.1%削減でき、目標を達成した	○	引き続き、CO ₂ 発生量ベースで売り上げ原単位比1%削減 省エネ法に基づく物流でのエネルギー使用量の算定開始、荷主にかかわる法規制、義務の確認	P26
	廃棄物の削減	製造系事業所でのゼロエミッション継続	1事業所を除き製造系事業所でゼロエミッションを達成した グループ全体のリサイクル率は、2004年度と同等の高水準で推移	△	ゼロエミッションを継続する、廃棄物総量の削減を検討する	P27
	化学物質の適正管理	—	PRTR対象化学物質の使用量、排出先を把握した	—	データ把握を継続する	P29
健康・安全	人身災害事故の削減	休業4日以上的人身災害0件、人身事故の件数を2004年度より30%削減する	休業4日以上は事故は数件発生、度数率は2004年度より減少、人身事故件数は約10%の削減	×	人身事故の件数目標は2005年度目標を継続、人間工学的事故を2005年度比25%削減	P30、31

○ 目標達成 △ 目標の80%を達成 × 目標の80%以下を達成 — 目標設定していない項目



要素開発にも環境配慮の視点を 取り入れていくことが必要です

東京エレクトロン株式会社
取締役兼常務執行役員

黒岩 健吾

2005年度は、環境・安全に対して以前より踏み込んだ活動ができたと思います。

お客様からは環境・安全に対する要求も高まっており、これらの配慮を進めることと質の高いEHS活動が事業を継続・成長させる条件の一つになっていると感じています。

環境面での装置改善については、長期的視野に立ち、要素開発段階からの取り組みが重要です。既に設計段階では環境や安全への配慮を確認する仕組みがあり、全社的に開発・技術部隊の意識も高まっていると認識しています。

安全面では、装置設計時には各国の安全規格に適合することを基にSEMIの安全ガイドラインを遵守しています。またトレーニン

グにおいては、高所作業や現場での実地訓練を含むチームリソースマネジメントという教育・訓練を導入しました。2005年度も重大な事故は発生していませんが、2006年度も事故分析と再発防止を徹底し教育・訓練にさらに力を入れていきます。

2006年度に入って、「環境に関する基本理念／方針」の改訂を行いました。従来の抽象的な表現を具体的に変更し、取り組み内容について明確にしました。今後は環境理念・方針に基づきロードマップを作成し、取り組みを進めていきます。

私のエコライフ

山菜採りやキノコ採りが好きで、
今でも時間があれば実家近くの自然の中へ出かけています。

